

平成 27 年度第 1 回 矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会 議事要旨

開催日時：平成 27 年 12 月 21 日（月）午後 1 時 30 分～4 時 00 分

開催場所：別海町役場 1 階 103・104 会議室

出席人数：10 名

<会議次第>

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 挨拶
- 4 オリエンテーション
- 5 座長及び副座長選出
- 6 議事
 - ・議案第 1 号 矢臼別演習場周辺まちづくり構想について（経過報告）
 - （1）まちづくり構想の概要について
 - （2）まちづくり構想策定の背景と目的について
 - （3）まちづくり構想（基本構想）アンケート調査について
 - ・議案第 2 号 こうありたい別海町の将来像（意見交換）
- 7 そ の 他
- 8 閉 会

1 開 会 （司会 総合政策課長）

2 委嘱状交付 （副町長から個人渡し）

3 副町長挨拶

本日は年末の大変お忙しいなか、また、寒さの厳しいなか、お集まりいただきありがとうございます。

本来であれば町長が出席し、皆さまに委嘱状の交付、ご挨拶をさせていただくところですが、町長は所用により不在のため、私のほうからご挨拶をさせていただきたいと思います。

まずもって、皆さまには「矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会」委員の委嘱についてご快諾いただきましたことに、深く感謝申し上げます。

委員の皆さまにおかれましては、日々、各方面においてご活躍されておりますことに心から敬意を表するとともに、日頃から町行政にご理解とご協力をいただいていることに対しまして、この場を借りてお礼申し上げます。

さて、本町のまちづくりについては、平成 21 年度に第 6 次総合計画を策定し、「笑顔あふれる豊かさ実感のまち べっかい」を将来像に据え、進めてきております。

そのなかで、別海地区においては、平成 26 年度に市街地の空洞化或いは老朽化した公共施設の再整備による町民活動の推進などを目的とする「別海町市街地活性化計画」を策定しました。本懇話会に係る「矢臼別演習場周辺まちづくり構想」は、この計画に位置づけられる「（仮称）生涯学習センター」、「学校給食センター」の整備に向け、大変重要な構想となります。

構想の策定にあたっては、3 年間をかけ町民の皆さまからのご意見を十分にいただきながら作業を進めていくことが、補助金を所管する防衛省からも求められているところでございます。

本年度は、策定期間である 3 年間の初年度にあたりますので、広く別海地区のまちづくりについて検討を進めてまいります。委員の皆さまの持つ幅広い見識や様々な経験から、数多くの貴

重なご意見をいただくことをお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

4 オリエンテーション

委員紹介の後、矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会についての説明。

老朽化した中央公民館及び給食センターの建替えにあたり、防衛省の補助事業を活用し整備を進めることとしており、その補助金を活用し施設整備を進めるためには「まちづくり構想」の策定が必要となっている。

構想は住民からの意見を十分に伺いながら、3年間かけて「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」を策定する必要がある、今年度は3ヵ年の初年度として、「基本構想」の策定を進めることとなっており、基本構想では、委員の皆さまから別海地区の「まちづくり」について広く意見をいただき、目指すべき方向性について計画にまとめることとしている。

本住民懇話会については、この構想策定に係る町民参加の一環として位置づけて設置するもので、本年度は本会議を含め4回の会議を開催し、ご意見をいただきたいと考えている。

5 座長及び副座長選出（立候補者及び推薦者なし。事務局一任）

座長：山口 長伸委員 副座長：橋本 淳一委員

6 議 事

議案第1号 矢臼別演習場周辺まちづくり構想について（経過報告）

（1）まちづくり構想の概要について

資料2に基づき、概要説明。

（2）まちづくり構想策定の背景と目的について

資料3に基づき説明。

委員

市街地と番外地はどのように分けているのか。今の市街地形成は、「市街地」と見られている場所も住所としては番外地ということもあるので、そこは入っているのかどうかを知りたい。

事務局

図面上に引いている線は、現在の整備状況を鑑みて、例えば下水や防犯灯、町道と主要幹線道路の結節状況などを加味しながら線を引いているため、別海市街地としている部分であっても、住所上は番外地になっているもの、あるいはその逆となっているものもある。

委員

説明の中での生涯学習センターと給食センターを建設するにあたり、防衛予算を使うことと、本住民懇話会を含めた住民会議などとのつながりや必要性はどこにあるのか。

事務局

防衛省所管からは、住民意見を広く聞くこと。また、平成26年度に策定した別海町市街地活性化計画の一部である生涯学習センターを含む計画になることから、別海地区に関し色々な意見をいただきながら策定するということを踏まえ、このような形となっている。

委員

建物のハード部分をどうするかという話になるのか。また、議案第2号にある別海町の将来と言ったもののつながりは何か。

事務局

懸案事項となっている中央公民館や給食センターの建替えというのは、町として急務の問題となっており、そのハード部分の更新というのは第6次総合計画の中で位置づけられながらも、財政確保等の部分で難しい状況にあった。今回の防衛事業のなかでは、その大きな柱となる2つのハード事業について、計画を立てていきながら建設へ結びつけていくこととなったが、現在の市街地の状況を考えたとき、その大きな施設が町の空洞化などを牽引できるような建物にしてほしいという意向が町民からあった。それが、ソフト部分の要素を盛り込み反映したものとするか、前段で策定した市街地活性化計画のなかで浮き彫りとなった問題を、ハード部分に盛り込めるものは盛り込むことも検討し、建設することとしている。また、直接盛り込めないものについても、それに関連付けたまちづくりということで、構想とハード部分を併せながら進めていきたいと考えている。

委員

生涯学習センターと給食センターを中心にという事情のなか、本委員の役割というのは、この懇話会において広く意見を出しても良いのか。あるいは本当にやらなければならないこととして、生涯学習センターについての意見を出すべきなのか。最終的に狙ったものへ進んでいくためには、もう少し絞ってもらったほうが、話が見えやすいのではないかと考えている。

事務局

3年間をかけて構想を策定するなかで、最終的には補助金の関連上その2施設があり、そこに収束していくというのが、防衛省から求められている現状である。ただ、別海市街地に関する課題は多岐に渡る部分でもあり、今年度は基本構想として、広く色々な観点から意見をいただき、まとめていくというかたちで考えている。

委員

計4回の懇話会のなかで、どこまでを目指すのか。

事務局

資料2の3ページ上段に、各年度に取り組む事業が記載されているが、今年度は基本構想が対象となり、理念や目標などの考え方を決める段階ということで、広くまちづくりに関わる条件の精査や関連するものの把握など、想定しているものを具体的なものとして詰めていくために、その条件として並べ立てていくという段階となる。生涯学習センターはもちろん、給食センターについても市街地の防災上に関わるものとなる。特に給食センターの部分は、災害時における食の貯蔵や提供など、防災との関わりの中で提供出来るような施設。生涯学習センターについては、公民館の機能にプラスアルファした複合的な機能といった観点から構想していく狙いを持っている。ただ、それは我々の現段階での狙いであり、その部分については、今年度は各分野の町民の皆さまから、広い意味での意見をいただきながら、来年度以降に具体的な施設整備計画や、施設管理・運営計画などに具体的に携わっていききたいと考えている。

委員

そうすると、(仮称)別海町生涯学習センター建設基本構想などの会議のことについては一旦白紙に戻し、この防衛まちづくり事業における平成 27 年度の部分を、本懇話会にて検討すると捉えて良いのか。

事務局

基本的にはそれらのものを具現化していくための、今回の事業ということになる。例えば、(仮称)生涯学習センター建設基本構想の部分では、それに特化した機能についての議論がなされてきたと思うし、市街地活性化計画では大枠での市街地の問題と、それに向けた展望を大きな括りのなかで話し合ってきた。それら双方に関連性を持たせたなかでの具現化というものについて、本懇話会では進めていきたい。そのなかでも、1 年目の今年については、市街地やそこにおける公共施設、商業地域との関わり等を含めた理念的な話をした上で、下地づくりというようなイメージで捉えていただきたい。

委員

つまり、いま話されたような施設整備が急務であるから、その施設を中心として市街地を絡めた話をするというのではなく、この市街地をまちづくりとしてどうするかという話か。

事務局

広い意味ではそれで良いと思う。ただ、そこで色々なものが出てくると思うが、この補助事業がそれらを全て叶えるための要素があるということではないので、市街地に関わる色々なものを顕在化させていくという部分の話になるかと思う。そこでの課題や検討事項は、平成 31 年度以降の第 7 次総合計画を策定していくなかで、具体的な将来の事業化ということにもなりうると思うので、広く検討をしていただきたい。

委員

(仮称)生涯学習センター建設基本構想策定委員会など、他の会議体で集約された様々な意見を加味しながら議論を進めるのか。

事務局

そうです。例えば、建設基本構想策定委員会は、それを策定するための意見をいただくための機関であり、委員会そのものは継続して動いてはならず、教育長への答申で終わっている。そこで出されたものを今後どのように具現化していくかについて、本懇話会が一つの材料・受け皿となり、細部について来年度以降さらに煮詰めていくという場合には、この場での議論をたたき台としていくことを考えている。

総務部長

このまちづくり構想は、3 ヶ年かけてやるということで、来年度が基本計画、そして実施計画と進んでいくなかで、基本計画の後段になってくると、施設の具体像についても触れていかなければならない時期になってくる。その後に建設場所についての具体的な構想を持っていかないと、実施設計には結びついていかないことになる。1 年目となる今年の基本構想は、まちづくりを行うなかで、そのまちづくりをしようとする地域住民の皆さんの意見や考え方をよく聞いて計画していくというひとつのテーマがある。1 年目は具現化できるかどうかも含め、市街地活性化計画のなかでご提案いただ

いた内容も含め検討していき、複合施設としてどこまで取り込むことができるのか。地域住民の皆さんからの意見もいただいたなかで、どこまでの内容を盛り込んだ事業としていけるのか、2つの施設ありきで考えずに、まずはこの事業にぶつけていき、結果として、すべてが補助対象にならないかもしれないが、例えば、併設していける部分が生まれてこないかなどの可能性を含めて、今年の構想の中では検討を進めてまいりたい。防衛省、北海道防衛局とも協議を行うなかで、大体の方向性やかたちが見えてきた状況で、来年度の基本計画にステップを移していきたいという考え方をしている。

委員

施設の建設場所は決まっているのか。中心に持ってくると決めつけて話さないと、繋がりも出てこないのではないか。

委員

現段階では決めていないのではないのか。今年度決めなければならないのは基本構想なのだから、理念としての別海のまちづくりをどういうふうにしたいのか、ということを平成27年度に出さなければ決めようが無いと思う。

総務部長

生涯学習センター建設基本構想のなかでは色々な委員の意見があり、最終的な場所の決定というものはない状況にある。市街地活性化計画でも、今後の市街地の地域要望がかなえられるかどうかという課題等もあったなかで、このまちづくり基本構想で話し合われたことが、具体的な事業に向かって進めていく一つの土台の部分になるという意味では、市街地活性化計画や生涯学習センター建設基本構想とは若干異なる部分がある。ただし、建設基本構想でいただいた意見も、ひとつの意見として反映していかなければならないが、色々な意見もあったというなかで、どう整理していくかということについても、この基本構想がスタートになると考えている。

(3) まちづくり構想（基本構想）アンケート調査について

株式会社 KITABA

まちづくり構想に関する住民アンケートは、11月20日から12月11日まで、住民基本台帳から2,500名の方を無作為抽出した。本日12月21日現在で、845通の回答をいただいております、回答率は33.8%となっています。11日の締切後もいくつかいただいておりますので、可能な限りアンケート結果に反映させたいと考えています。本日は中間報告ということで、単純集計したものを報告させていただきます。

回答者の属性ですが、男性・女性ともに半分となっており、年代とご職業についてもそれぞれバランスよく分かれています。居住歴もバランスの良い回答結果となっているが、道外からの転入は少し少なめとなっている。

現在住んでいる地区については、別海地区が44.7%と一番多く、居住形態では72%の方が一戸建てという状況となっている。

別海町の生活に係る様々な項目について「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」という回答をいただいた。「そう思う」ということでは、車が利用しやすいという項目に6割の方が回答している。いま住んでいる家の満足度、いま住んでいる地域の環境のよさも5割を超える方が「そう思う」と回答し、今後も別海町に住み続けたいという方も半数を超え、これは非常

に高い割合だと思っている。一方で、「そう思わない」という回答ではレジャー施設が充実しているという項目で、半数を超え、一番多かった。また、公共交通機関に満足していない方も4割を超えている。つづいて、他自治体から人が訪れる魅力を持ったまちになっているかという問いに対して、「そう思わない」が4割を超える状況である。

中央公民館の利用状況についてだが、行かないと回答されている方が33.5%。一方で、月に1回は必ず訪れる方を集計すると、14%という数字となる。つづいて、中央公民館を利用する目的だが、文化祭や祭事などのイベント参加が43.5%と一番高く、次に写真や絵画などの展示会が26.4%となっている。中央公民館を利用する際の交通手段については、マイカーが圧倒的に多く84.9%。公民館において充実して欲しい取り組みは何か、という問いについては、趣味や教養に関する講座が48.6%。次に、健康・スポーツに関する講座が32.8%となっている。公民館において充実して欲しい支援は何ですか、という問いについては、サークルなどの団体活動に関する指導・助言が38.6%。次にボランティア活動団体に関する指導・助言が28%となっている。

別海市街地には週または月に何回くらい行きますかという問いについては、ほぼ毎日・週に2〜3回・週に1回を合わせると57.3%という数字になり、週に1回は必ず行く方が半数を超えているという状況である。次に、別海地区市街地へ行く主な目的については、買い物が68.2%と一番多くなっている。

今後の別海市街地機能として必要だと思うものについては、地元産品を使ったレストラン・カフェ、地元農水産品を買える場所が共に44.5%。つづいて、子どもの遊び場（屋内・屋外）が35.3%となっている。また、一次産業のまちとして、今後どのような取り組みが必要かについては、特産品の開発が41.2%で、環境の保護、地場産品を使った給食という順番となっている。

防災・減災に関する項目として、災害が発生した場合に最も不安に思っていることは何かという問いについては、電気・水道の確保が77.8%。東日本大震災でも。電気と水道の確保が一番大変だったということで、そういった影響もあるのかと考えている。それから、地域で防災・減災に取り組むために必要なことは何かについては、近隣住民や町内会による自主的な助け合いが71.2%。次に自衛隊や消防等の救助機関との連携が58.7%となっている。

災害に際し、市内に不足している施設・設備は何かという問いについては、備蓄物資や支援物資で39.1%。それから、町内への物資の供給拠点、地域の避難施設、地域の備蓄倉庫となっている。先ほどからお話の出ている給食センターの平時の利用、或いは有事の際の利用に大きく関係してくるものと考えている。次に、避難所で困ったこと、困ることは何かについては、お風呂やトイレ、水や食料の供給というのが6割をこえた回答となっている。

自衛隊の印象についてお聞かせくださいということで、どちらかと良い印象を持っている、良い印象を持っているを合わせると65.5%になり、多くの方が良い印象を持っているという傾向があった。一方、米海兵隊の印象については、良い印象を持っている、どちらかというとも良い印象を持っているを合わせると27.1%。どちらかというとも悪い印象を持っている、悪い印象を持っているを合わせると36.1%という結果になっている。自衛隊に期待することについては、地域内での奉仕活動が50.1%の他、地域イベントへの協力が37.2%となっている。災害支援については、被災者の救助・搬送が80.4%。支援物資の輸送や、災害復旧活動が7割を超える回答となっている。

別海町にどのくらい住んでいるかの問いについては、20年以上という方が7割を超えている。現在住んでいる住宅は、どのような視点で選んだかについては、職場に近いというのが25.3%で最も多く、また、生まれたときからずっと住んでいるが20.4%と、長く住んでいる方が多いという地域となっている。

住宅の周辺環境として不足していると感じるものは何かについては、公共交通機関が 38.9%、スーパーやコンビニが 30.4%となっている。今後引っ越すとしたら、どの自治体に住んでみたいかについては、中標津町が 40.8%となっている。別海地区の商店街には、週または月に何回行くかについては、ほぼ毎日・週に 2~3 回、週に 1 回程度を合わせると、55.7%となり、週に 1 回は訪れるという方が 5 割を超えているという状況である。その際の交通手段については、中央公民館と同様にマイカーとなっており、85.3%となっている。別海地区の商店街に行く理由として多い目的は何かという問いについては、買い物(食料品)が 75.6%と最も高くなっている。今後、別海地区の商店街に求める業種では、町内の特産品が買える土産店で 40.9%、書店が 32.5%となっている。

以上が、アンケートの中間報告ということで、次回の懇話会のときに地区別、或いは年代別などで詳しく分析したものを御報告できればと考えている。

議案第 2 号 こうありたい別海町の将来像(意見交換)

株式会社 KITABA

10 年後 20 年後を見据えて、別海町の将来像がこうあったら良いというのをお話しいただきたい。それぞれの立場で考えていることと、個人的に考えていることが違うこともあろうかと思うので、まずはそれぞれの立場からお話いただき、その後いち町民としての意見をいただきたい。

委員 A

中心市街地を活性化するという意味では、まちの中央に人を集めるため、生涯学習センターはまちの中心部に建てていただきたいと思っている。それに付随して、アンケートにもあったが中心市街地に物産館のようなものが必要と考えており、できれば生涯学習センターに絡めて、人が集まる場所にそのものを建設して運営していきたいという構想を持っている。そのことにより、このアンケートに書かれている町民の皆さんの考えを解消でき、外部からきた方の休む場所にもなれば良いと思っている。これからの別海町を考えたときに、子ども達が別海にまた戻ってくるまちにするためにも、今回の構想の中でその程度まではやっておかなければと考えているので、この懇話会のなかで考えを話していきたい。

委員 B

自社の経営を高め、どのように地域に貢献し、雇用の場を創出するか。そして先を見据えた経営環境を整えていくことで、各産業が育ち地域を良くする、という理念のもと、それによりまちが活性化していき、雇用の場やビジネスチャンスが生まれるようなそういうまちづくりをしていかなければならないと思っている。そのためには、住環境の整備や労働環境をきちんとしなければならない。アンケートを見ると、物産館の関係などは必要なとは思いますが、そういうものに対してのバックアップ体制というのは、いち企業だけでやるのは非常に難しいので、全体で育てる傾向というものをつくっていかなければならない。個人的な意見で言えば、生涯学習センターに物産館を併設するのではなく、道の駅というかたちが必要だと思っており、尾岱沼にある道の駅に、物産館や保養施設のようなものを併合すれば良いのではないかと考えている。別海市街であれば、メインの通りとなる国道の往来のなかにつくる必要があるのではないかと思います。

また、若い子どもを持ったお母さん方が働ける環境づくりというのも必要と考えている。今は、昔と

比べて働く時間帯というのは広がっているが、ある程度遅い時間に働こうと思ったとき、その遅い時間に対して受け入れる策が無い。そういうものを町に率先してつくってほしいとは言わないが、民間と一緒につくる、それに対するバックアップをする等、働き手の環境を整えることも、なかに人を入れ込むものとして非常に重要だと思っている。ボランティア活動を育てるというのも、そういうことに対する支援というのも必要であり、複合的に色々なものが生まれてくると思うので、そういった組みかたをした方が良いと思っている。

委員C

10年後20年後を考えたとき、基本的には基幹産業である酪農・水産業の絶対的戸数を減らさないことだと思っている。そのことによって、戸数イコール人口、それから経済力。経済力とイコールになるのは購買力でもあると思うので、市街地に住んでいる方々も職種はどうであれ、その購買力の延長線上として成り立っていると考えている。また、子育てや教育も含め、そこにいる人達の色々な関わりの中でそれぞれの方々がそこで生活し、町の生産を支えていくのだと思っている。別海町は、中央のほかに東部地区、西部地区と、それぞれ市街地が形成されているという現実のなかで、中央としてのまちづくりが必要ではないか。例えば、住民も含めて色合いなど統一した景観を考えた建物を建てるだとか、そういったことも総合的に考える必要がある。生涯学習センターや道の駅については、まち独自の特色ある地域の特産品を、町の加工センターも含め、開発していくことが必要と考えている。

委員D

10年後までに絶対しなければならないと思われるのは、近隣住民や町内会による自主的な助け合いということに留意しなければならないと思う。中心市街地をなんとかすることと、助け合いをきちんとしていける体制を組めるような組織をつくっておかなければならないのではないかな。

委員E

子ども達が別海町を誇りに思えるようなまちにするため、色々な世代の大人たちが関わってほしいと思っている。

委員F

別海町の小さい子から高齢者まで、障がいのある人、無い人色々な方がいる中で、そういった人達が日頃の生活のなかで助け合える関係づくりができるような地域づくりについて働きかけ、その実現を目指しているところである。

委員G

理想としては、母なる西別川が真っ青になり、その周りには緑が生い茂り、小さい子からお年寄りまで、わいわいとできるイメージができれば一番いいのかなと思っている。そうなるためには、自主防災という観点で、町内会でもやっているようだが両隣3軒くらいの家族構成を把握できるような環境づくりができれば良いと思う。防災に関しては、アンケートのなかで避難所で困ることとして、風呂とトイレが一番多かった。そういうことを考えると、霧多布の温泉施設「ゆうゆ」が、風呂をメインとした避難施設になっており、別海町にも温泉施設があるので、その辺もこういった形の中で十分議論していただきたい。特に長く避難するということになると、そういった施設の充実が必要であり、これから先、移住者に定住してもらうということも含め、進めていかなければならないと思う。電気と水についても、最低でも市街地の配水管はループ化を進めてほしい。どこが断水しても、逆から送ればポンプも助けられ、これは仙台市が何十年も前から整備しており、断水してもごく一部の断水で済む。

一次産業なくして二次産業、三次産業はあり得ないので、やはり母なる西別川と海、森をしっかり守って、そこに生き生きと人々が生活できる地域を目指すべきだと考えている。

委員 H

公民館活動を十数年やらせてもらっており、色々なイベントなどを通じて沢山の方々が携わっている。町内にあるセンターを4年ほど前に改築してもらったのだが、新しくなったことで使い勝手が良くなったかという、縮小されたことで色々工夫してやっているという現状がある。アンケートでも、公民館に充実してほしい支援として、「サークルなどの団体活動に関する指導・助言」という回答が多かったが、ここでも皆がそれぞれ課題を抱えている。活動するなかで、どうすれば人を呼びこめるのか、どうしたら町外から別海に来てもらえるのか。色々な施設の建設やイベントの開催というのはどこでも考えることなので、そこに关わる人間がどういう人で、どこに配置されているのかなど、別海に来る人がその「人」を狙って来るように仕向け、それを取り組みの中で育てていくということも必要ではないか。やはり人との繋がりを大切にしなければ、後に続いていかないと思っている。

委員 I

別海町では、住んでいる町への愛着度、定住志向が今の子どもたちには高い。これを将来的にも維持し、そしてその方向性で機能させていくために、3つの観点でお話させていただきたい。一つ目は、多世代交流型の施設にしてほしいということ。それはやはり、母親が乳母車を押していける場所、老人が車椅子で行ける場所、そういった場所がいいと考える。また、合同音楽祭も中央公民館で開催しているが、狭いために中学生が入ると一般の方々はほとんど見られないという状況にある。このことから、多世代の方に入ってもらえることで、また違ったものになるのではないかと考えている。二つ目は、東部、西部、中央の公民館のあり方について、これをどのように考えていくのか。ひとつはネットワーク型で形成するのか、若しくは生涯学習センターという名前で置くのであれば、シンボリックに生涯学習センターを配置するのかということ。このことで、機能が変わってくるのではないかと考えている。私としては、シンボリックなものが中央地区にできることで、東部地区、西部地区もより活性化の方向へ向かうのではないと思う。三つ目は、自然との景観づくりをより進めていただきたい。先ほどお話もあったが、緑や西別川などのことについて、もう少し深めてほしい。西別川の河川敷は、河川敷というよりも雑木が生えており、朝夕歩く人達が河川敷を歩けない状況というのはどうなのかと思っている。また、自然のなかでいわゆる木を主体とした施設としながら、そしてちょっとしたコンサートができるような屋外施設があれば、大変夢のあるものになるのではないと思う。そしてそれらの夢をできるだけ小中学生にも語ってもらえるような体制づくりをしていただければ、子どもたちも違った動き方になってくると考えている。

株式会社 KITABA

最後に、町民の立場から一言ずつお願いしたい。

委員 A

私がこのまちで60年生きてきたと同様に、子ども達がこのまちで育ち、住んでほしいというのが願いである。そのためには、基幹産業がしっかりしていないと雇用も無くなるので、行政と民間を含めてやっていくまちづくりを基本として、外貨を稼ぐ、税金をいかに増やすなど、いずれにしても雇用がなければならない。今、地方創生では「まち・ひと・しごと」になっているが、私は逆に「しごと・ひと・まち」というふうに考えないと、国づくりもまちづくりもできないのではないと思う。やはり働く場所がき

ちんとなければ、子ども達が帰ってくるということも叶わない話なので、緊急に行政と町民が一緒になってまちづくりをすることが全てだと考えている。

委員B

絶対的には、子供が帰ってきたいと思うまち、子どもが帰ってきても暮らせるまちを残さなければいけない。そのためには、ハード面での話は当然だが、やはり私はソフトだと思っている。先ほど雇用の話も出ていたが、どうやって連携しながらバックアップをするのか、そして精度を高めていくか。お互いの専門的な見地から、それを磨き上げていっていいまちづくりをしていくことが大事なのではと思っている。全てを行政に全部やってもらわなければいけないことというのは、まちとしてそれは完成しない話になるので、どうやって関わっていくのか。そのためには連携しかないと思う。なので、色々な団体や産業を含めた中での連携をとれる場所、部署が必要である。それにより色々な情報共有もでき、そのなかでの役割分担やアイデアが生まれてきて、そこから必要なものとしてビジネスが生まれてくる。そうすると雇用の場も増え、各企業も強くなり雇用体系も良くなっていくという循環になる。外から入ってくるお金も大事だが、入ってきたお金をどのように使うのか。町内での循環ということも大事だと思っている。

委員C

女性が結婚や出産することで、その能力が雇用の場から断ち切られてしまうようなまちではいけないと思っている。酪農産業を支える女性の力というのは非常に大きなものである。結婚して退職する方もいるし、出産しても安心して預けられる場所が無いという状況のなか、そのことだけでリタイアするわけではないが、仕事上で能力を生かしきれない部分がある。もう一つ、女性も定年まで能力を遺憾なく発揮して働いてもらえるような職場環境、社会環境というものをこのまちにつくっていくことが、人口増加や経済循環なども含め、女性が働ける受け皿づくりというのも非常に大事になってくると思う。

委員D

子ども達がこのまちに帰ってこようと思っても、仕事がないという話をよく聞く。私は学校教育のなかで、外に出て行って帰ってきたとき、その地域に仕事が無かったことを考え、起業家として帰ってきてほしい。別海町でこういう分野で起業したいなどというように、仕事も一緒に引っ張ってくれるような教育をして、育ててほしいなと思う。

委員E

結婚して17年ほど専業主婦をしているが、子どもの幼稚園や学校などで色々に関わりを持つことにより、勉強になることがたくさんあった。先ほど、女性の雇用の話もあったが、ある一定期間は外に働きに出なくても、お母さんとしての仕事ができるような環境があればいいなと思う。

委員F

子育て関係の方々のお話では、別海で遊ぶよりも中標津の公園に行くという話を聞いた。最近は夏場の気温も高いので、熱中症などを考えると、屋内施設があり遊具もたくさんある場所がいいという話のほか、別海市街地に中々行くことがないという話も聞かれた。このまちづくり構想は別海地区が中心となるので、そのような点では町外へ出ている人達を市街地に呼び込めるようなものになればいいと思っている。

委員 G

10 年後、まちなかの町道、道道、国道、歩道が平らになって、電柱がなくなり、雑草も生えてなければ、とても良いまちだろうなと思っている。

委員 H

別海町はこれだ、というものを明確にすることかと思う。まだまだ自然を生かした中でできることというのはあると思うので、それを一つひとつ拾い上げていってほしい。

委員 I

ふるさとの森へ行ったとき、とても良い場所にも関わらず人の出入りが無い気がした。施設もたくさん良いものがあり、このまちを良くしようとする人達が必ずいるので、そのまちづくり活動が単発で終わってしまうことの無いよう、それを線として結びつけていくようなものが必要だと思う。既存の施設を利用しながら、点と点を線にしていくためのソフト、人づくり、仲間づくり、ネットワークづくりを進めていけば、また違った別海町の良さが出てくるのではないかな。

委員 J

あと 10 年経つと、団塊の世代が一気に後期高齢者となる。それらの面倒を見るのが若者であり、その若者を増やすにはどうすればいいのか。一点目として、教員がある。昭和 40 年代後半、別海は人気が無かったが、教員住宅を良くしたことで教員が来るようになった。別海町の学力が高いのは、素晴らしい教員がたくさんいるからである。また、土地の安さにおいても中標津や根室は別海町に絶対敵わないが、たくさん町有地があるのに、なぜそれを分譲していかないのか疑問である。今、教員と言うのは、100 km なら通える範囲だといわれているが、別海町は根室管内の真ん中に位置しているので、羅臼は難しいが、根室、標津、中標津に通うこともできる。例えば、転勤で一度中標津に引っ越したのだが、子どもの保育料が高いことから別海町に住みなおし、こちらから中標津に通っているという話もある。交通費をかけても別海の方が保育料が安くて良いということであり、そのようなメリットがたくさんある。もう一つの具体案として、義務教育としての小中学校の特別支援学校が根室管内に一つも無いということがある。これは、道内でも根室管内と檜山管内だけで、あとは全道各地にきちんとある。今、特別支援学校に入る子どもの出現率が、最初は 6% といっていたのが現在は 10% 以上になっており、その子どもたちの受入先が無いことから、結局は遠くの学校まで行くというのが現状である。中間地点である別海町には広い土地があるのだから、学校を建てる場所もある。学校が建てば、道職員や教員、その家族が町に入ってくることにもなるので、ぜひそのようなことも考えていただきたい。

株式会社 KITABA

ありがとうございました。中心市街地だけを見るのではなく、もう少し近隣の市町村も含めた広域的な視点から、まちがどうあったら良いのかということ。また、それぞれの施設の機能に関する話として、単体の機能が散らばっているのはいかがなものかということ。複合的な要素がきちんとネットワーク化し、ハードだけではなくソフト面も充実させる必要があるというような話があった。

本日出た意見はこちらでまとめ、次回懇話会の際に資料として配布したい。

7 その他

- ・町ホームページにおいて、本懇話会委員の名簿及び会議内容の掲載について了承を願いたい。
⇒了承
- ・本構想策定に係る住民参加機会の一環として、「矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民大会」の開催を予定している。今後、新聞折込等で周知させていただくが、委員の皆さまにもこの場を借りて報告させていただく。

8 閉 会